

気仙沼市 生活支援体制整備事業 報 告 書

～地域支え合いづくりに関する取り組みと課題～

令和3年3月

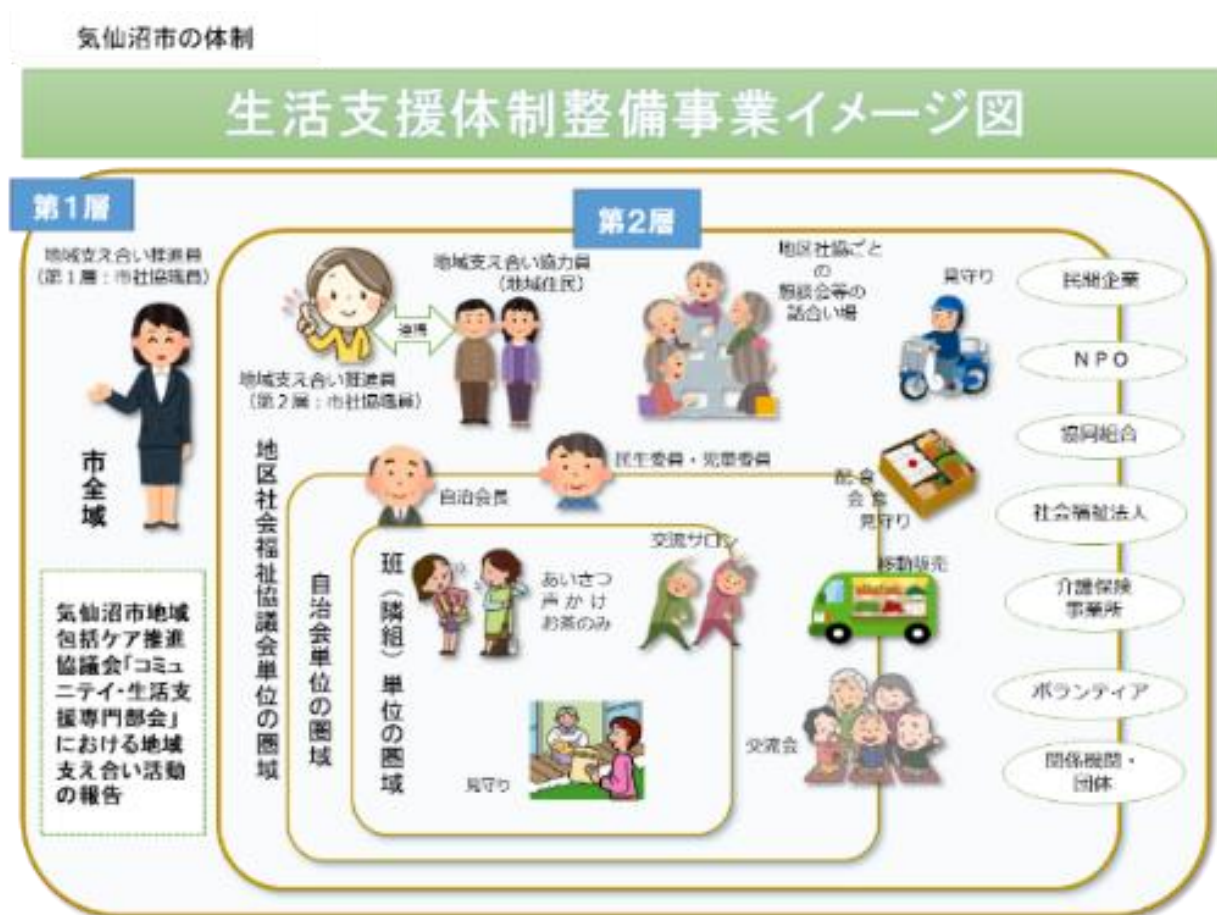
気仙沼市保健福祉部地域包括ケア推進課
社会福祉法人気仙沼市社会福祉協議会

目次

1	気仙沼市生活支援体制整備事業のこれまでの取り組み・・・・・・・・・・	2
2	平成 29 年度から令和 2 年度までの地域支え合い推進員の活動報告	
	～実績と成果～	
	・平成 29 年度・・・・・・・・・・・・・・・・	4
	・平成 30 年度・・・・・・・・・・・・・・・・	7
	・令和元年度・・・・・・・・・・・・・・・・	12
	・令和 2 年度・・・・・・・・・・・・・・・・	18
	・地域課題に対しての地域支え合い推進員の関りと地域の動き・・・・・・・・	24
3	「みんなが主役の介護予防作戦会議」の開催について・・・・・・・・	26
4	4 カ年の事業実施を通して・・・・・・・・	29
5	令和 3 年度以降の事業展開・方向性について・・・・・・・・	29

1 気仙沼市生活支援体制整備事業のこれまでの取り組み・沿革

本市では、平成29年4月より、生活支援体制整備事業を開始し、「地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）」を第1層（市全体）に1名配置し、第2層については16地区社会福祉協議会圏域に「協議体」を設置し、住民主体の活動を活発化し、地域全体で高齢者を支える体制づくりに取り組んできました。



地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）とは…

事業は気仙沼市社会福祉協議会に委託し、第1層（市全体）に1名地域支え合い推進員を配置、第2層については、16地区社会福祉協議会圏域を10名が担当し、地域に出向き、地域のお宝さがしや地域の困り事の把握・支援に努めてきました。

なお、地域をきめ細やかに状況把握するために、地域支え合い協力員を各地区に配置し、地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）と協力し、活動をしてきました。

協議体とは…

協議体とは、地域に支え合いの輪を広げて行くために、地域住民同士で話し合う場です。本市においては、16地区社協単位で地区懇談会を開催しており、その場を活用しながら、地域の課題や解決に向けての方向性等話し合いをすすめています。

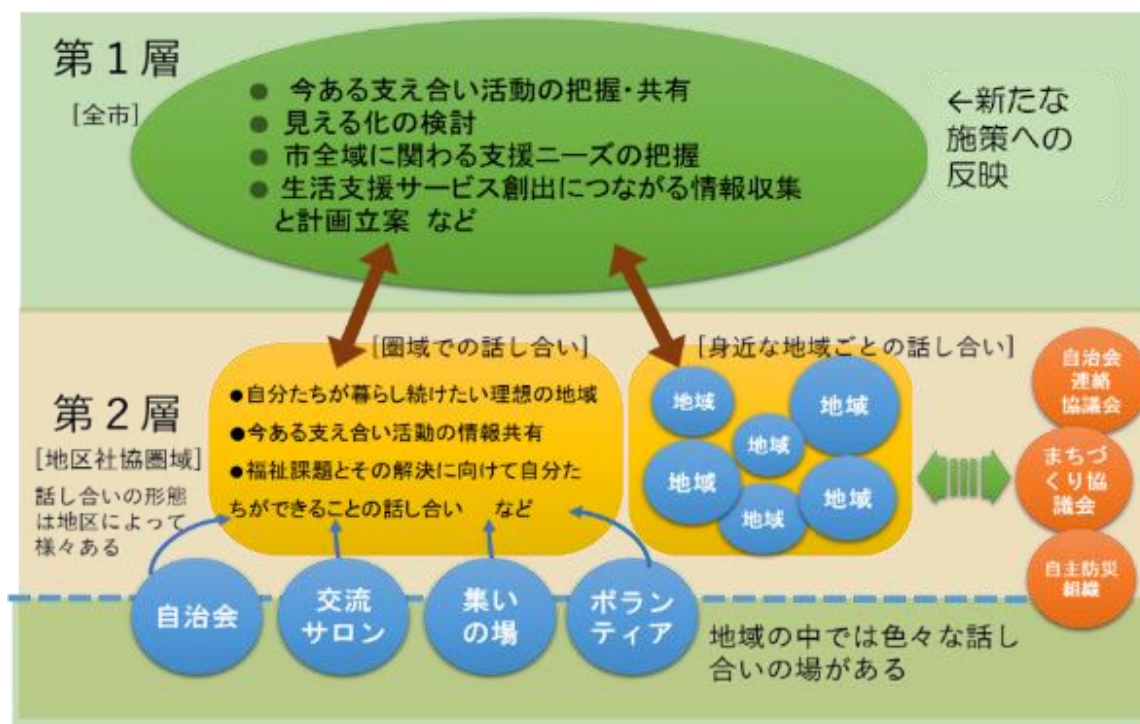
協議体の主な役割として、（１）地域における生活支援のニーズや既存の社会資源の情報交換、見える化の推進（２）生活課題の解決に向けた取組の調整（３）関係団体への働きかけ・連携構築としています。

なお、協議体の構成員・団体については、地域支え合い推進員・地区社会福祉協議会・民生委員児童委員・自治連・老人クラブ・ボランティア団体等となっております。

第1層協議体と第2層協議体の関係

第2層協議体は、身近な地域での助け合いの仕組みを作るため、課題や資源の情報を集め、解決策を検討します。第1層協議体は、第2層で話し合われたことや市全体で考えていくべきことを整理し、第2層が自主的に活動しやすいような仕組みを考えることや市に解決策等の提案をする役割をもっており、連携し活動を行います。

本市の場合、「気仙沼市地域包括ケア推進協議会」のなかの「コミュニティ・生活支援専門部会」を第1層と位置づけ、第2層の取組や好事例を報告し、情報共有を図っています。



～実績と成果～

(1) 社会資源の見える化・発信

住民組織等（地区社協、自治組織、まちづくり協議会、民生委員・児童委員協議会ほか）現状把握と共に、地域の社会資源（「地域のお宝」）の把握に努めました。

(2) 多様な主体への協力依頼等働きかけ

市内 9 会場で開催された自治組織代表者会議や、地区社会福祉協議会圏域で開催される「地区住民懇談会」において、生活支援体制整備事業の説明と地区担当地域支え合い推進員を紹介し、周知を行いました。

[illegible]

○地域支え合い協力員の配置

本市の特徴の一つとして、住民と共にこの事業を進める観点から、16地区社協より、地域をよく知る住民1～2名を「地域支え合い協力員」として推薦いただき、地域支え合い推進員と連携して地域づくりに取り組んでいます。

【配置状況】 4地区社協より7名

・西地区 2名 ・上地区 2名 ・松岩地区 1名 ・唐桑地区 2名



地域支え合い協力員との活動の振り返り



地域支え合い協力員地域のサロンへ参加

(3) 関係者間のネットワークの構築

○地区民生委員児童委員協議会定例会出席（毎月）

(4) 目指す地域の姿・方針の共有，意識の統一

○『地域支え合い協力員・地域支え合い推進員等合同勉強会及び意見交換会』開催（1回）。地域支え合い協力員の推薦地区社協会長にも同席いただき、連携協働の体制づくりを進めました。

○「地域支え合い推進員合同ミーティング」開催（12月～毎月1回）

共通認識のもと活動に取り組むため、意見交換、情報交換等を定期的に行い、宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議事務局からアドバイスをいただきました。

(5) 協議体の様子

第1層協議体	平成29年11月22日 ・生活支援サービスの充実について（生活支援体制整備事業）	
第2層協議体	地区住民懇談会 13地区社会福祉協議会で開催	
	開催地区	西地区、上地区、魚町地区、南町柏崎地区、南地区、松岩地区、新月地区、階上地区、大島地区、面瀬地区、唐桑地区、津谷地区、大谷地区
	内 容	生活支援体制整備事業の説明、集いの場紹介、意見交換など ※地区により内容は異なります。

「これからも住みよい地域をめざして」 地区住民懇談会を開催しています

本会では、各地区社会福祉協議会等と共に「地区住民懇談会」を開催しており、今年度は現在までに10地区で開催しています。

懇談会では、はじめに「支え合いの地域づくりを目指して」と題し、生活支援体制整備事業について、市地域包括支援センターと本会から説明を行いました。その後の懇談では、自治会等で開催している「集いの場」の取組み紹介や、運営上の工夫点、支え合い活動を進める中での課題などがあげられ、参加者同士で意見交換を行う機会となりました。



こんな声がきかれました

- コミュニティづくりの原点はささいな日常の会話から。
- 災害公営住宅入居者など転入者との交流会を開催しています。
- 老人クラブで見守り活動をしています。
- 地域の伝統芸能をつうじた住民のつながりが深い。
- 買い物がつらい高齢者がいる。
- 心配なのは高齢者だけではない。
- 地域の様々な団体との連携と情報共有が必要。など

(平成29年12月1日号 「社協だより」に掲載)

成 果

事業初年度は、啓発活動と社会資源の把握を中心に事業を実施しました。

本市の特徴である「地域支え合い協力員」の配置については、東日本大震災後、地域が大きく変化した状況下、地区社協から事業の趣旨を御理解いただき、推薦を頂けたことは、地域と一体的に事業を推進していく上での大きな成果でありました。

なお、第2層協議体については、従来から地区社会福祉協議会圏域での「地区住民懇談会」等、話し合いの場があったことから、その場を活かしています。

◆◆平成30年度の主な取組み◆◆

(1) 社会資源の見える化・発信

○地域の現状と資源の把握

地域の社会資源（地域のお宝）を具体的（構成団体、推進員支援の内容、お宝がもたらす効果、地域の声など）に把握し蓄積したことで、地域特徴と今後の取組みの方向性をイメージすることができました。

また、地域支え合い推進員同士活動の共有により、住民への情報提供や活動のヒントを伝えることが出来るようになりました。

「地域のお宝」把握数 228件

○地域包括ケア市民フォーラム（11月17日）において、事業説明と地域活動紹介として新町1区交流サロン「なかよし会」の発表を支援しました。

(2) 多様な主体への協力依頼等働きかけ

○制度の周知・啓発活動

自治組織代表者会議へ出席し、生活支援体制整備事業の説明と地区担当地域支え合い推進員を紹介しました。

また、新たに地域支え合い推進員の活動内容周知チラシを作成しました。裏面には、様々な機関・団体・事業所・住民が連携する支え合いの地域づくりをイメージした図を入れ、地域支え合い推進員が身近な存在になるよう工夫をしました。



○広く地域活動の周知を図るため、
社協だよりの紙面に『地域のお宝コーナー』を新設し、活動紹介だけでなく、「ここがイチ押し！」と地域
支え合い推進員からの一言メッセージを加え、活動の効果や意味づけし
ています。（紹介22団体）

はじめよう！広げよう！ 支え合いの地域づくり
「地域のお宝」紹介しま～す

本会では、生活支援体制整備事業を気仙沼市より受託し、地域支え合い推進員を配置して、みんなでつくる支え合いの地域づくり、そして地域が元気になる取組みを推進しています。推進員が各地域に何う中で、住民同志の支え合いをたくさん見つけました。これこそ「地域のお宝」。

今号から、地域支え合い推進員が、見つけた「地域のお宝」を紹介しま～す。

「地域のお宝」とは
★ 交流サロン・ミニデイなどの集い
★ 近隣での見守り活動など何気なく行っていること
★ 伝統行事、お祭りなど
特別に意識せずに行われていることが、見守りや情報交換、つながりづくりになっています。これをこの事業では「地域のお宝」と呼んでいます。



西地区
九条5区
すこやか体操



毎月最終日曜日の午前中に九条5区の住民を対象とし、羽黒神社の敷地内にある羽黒会館で活動しています。参加人数は平均10名前後とのこと。

この日は、ウォーミングアップの口読体操から始まり、各駅や駅で体が歪まったところで、椅子に座って無理なく出来るストレッチや体操などが行われました。

そして、体を動かした後はお茶のみタイムです。参加者づくりの「がんづき」をいただきながら、それぞれの近況や休んだ人、地区内の気になる人の様子を情報共有していました。その中で「輝りに〇〇さんのごきそ、おやつ持って寄ってってみっかなあ」という声があり、自然な形で地域の見守りにも繋がる活動になっています。

代表を務める菅原さりさんは「介護予防をして健康寿命を延ばすだけでなく、地域のつながりも意識した活動を行っています。」というお話しに他に「何が決めるにしても、必ずみんなで話し合って決めています。とにかく《楽しく・仲良く》をモットーに、全員が会の主体となって活動しています。」と話されていました。

和気あいあいとした雰囲気の中、笑顔(笑顔)笑顔で活動している「九条5区すこやか体操」でした。

☆ここがイチ押し！
代表の菅原さんが、集まった人達の年齢や体調を考慮した上で、その日に行うメニューを決めて取り組んでいます。

○パネル展示

気仙沼市役所ワンテンビル情報

プラザ

【展示期間】

平成31年3月15日～3月28日

○地域支え合い協力員の配置

【配置状況】

5地区社協8名（昨年度比1名増）

西地区2名・上地区2名・南地区1名・

松岩地区1名・唐桑地区2名

地域支え合い協力員・推進員合同連絡会議の様子が、「福祉みやぎ」9月号で紹介されました。



(3) 担い手の育成

宮城県生活支援コーディネーター養成研修カリキュラムが、平成30年度・令和元年度の2年にわたり、気仙沼市を会場に開催されました。

地区社協役員や民生委員児童委員、ボランティア、地域支え合い協力員と地域支え合い推進員等が受講し、住民・職員の垣根を越えて意見交換や作業などを協働体験することができました。（全5回 延べ287人参加）



(4) 関係者間のネットワークの構築

○自主防災組織意見交換会への参加・協力

各地区社協圏域で開催された防災組織意見交換会等に、テーブルファシリテーターとして参加・協力し、日頃の地域の支え合いが災害時にも活かせることを伝えました。

○地域づくり・地域相談業務関係者情報交換会に参加し、福祉専門職はじめ地域づくり担当者や被災者支援業務担当等とのネットワークづくりに努めました。

○地区民生委員児童委員協議会定例会出席（毎月）

(5) 目指す地域の姿・方針の共有、意識の統一

○モデル地区社協の指定

気仙沼市社会福祉協議会地域支え合い活動推進モデル地区社会福祉協議会指定事業（新設事業）

住民が元気に活躍できる地域づくりと支え合い活動の充実・強化を図ることを目的として、小地域福祉活動及び気仙沼市生活支援体制整備事業を推進するためのモデル地区社会福祉協議会を指定するとともに、活動費の一部を助成しました。

・モデル地区社協指定（初年度）（2地区）

指定期間 平成30年10月1日～令和2年3月31日（1年半）

新月地区社協（実施主体：表松川自治会）
新月地区表松川自治会における住民の特技を活かした生きがい・健康づくり事業
松岩地区社協（実施主体：高齢者サロン水梨陽だまりカフェ）
松岩地区内における高齢者サロンを通じた生きがいづくり支援と世代間交流事業の展開

○地域支え合い推進員連絡会議

毎月1回定例開催

○地域支え合い協力員との合同連絡会

1回（平成30年7月23日開催）

地域支え合い協力員とは情報交換や地域活動への同行等，随時連携を図っています。

（6）協議体の様子

第1層協議体	平成30年7月27日 ・平成29年度の実施状況の報告及び平成30年度の活動計画について	
第2層協議体	地区住民懇談会 11地区社会福祉協議会で開催	
	開催地区	西地区，上地区，中央地区，魚町地区，階上地区，大島地区，面瀬地区，唐桑地区，小泉地区，津谷地区，大谷地区
	内 容	支え合いの地域づくりを目指して事業説明，集いの場紹介，意見交換など。※地区により内容は異なります。

懇談会では、グループワークを実施した地区が多く、ファシリテーターや記録を地域支え合い推進員・生活支援相談員・地域包括支援センター職員等が担いながら、様々な声を聞くことが出来ました。

震災後、初めて開催した地区では、これからの地域づくりを考えるきっかけとなりました。



また、地域支え合い推進員としての住民の声を引き出すスキルを磨く実践の場にもなりました。

成 果

「地域のお宝」を意味づけし、活動の効果を丁寧に説明し、社協だよりでも掲載コーナーを新たに設けて広く理解促進に努めました。周知活動強化により、活動者の意識変化はもとより、支援者や地域住民の活動に対する理解も深まりました。

平成30年度は、地域支え合い推進モデル地区社協指定事業を新設しました。地域支え合い推進員も関わりながら、地域課題や特性を生かした取り組みを支援しています。

人材育成としては、本市において開催された宮城県主催の生活支援コーディネーター養成研修受講を広く住民に周知をしたことで、住民・職員の垣根を越えた意見交換やグループワークなど、相互理解と交流、またネットワーク構築の場にもなりました。

・・・コラム・・・

宮城県保健福祉部長寿社会政策課では、隔月「まちづくりと地域支え合い」を発行しており、「地域のお宝活動」を紹介しています。2019年11月号では太田区内の鮮魚店が、「地域の高齢者の集まりの場」となり、交流や見守りなどになっていることが紹介されました。



◇◇令和元年度の主な取組み◇◇

(1) 社会資源の見える化・発信

○活動発表・紹介等

名 称	開催日	会 場	活動発表・紹介等
おらほのお宝発表会	8月21日	ワンテン庁舎	館山わんこクラブ 踏み切り手前のお茶処 大初平いきいきクラブ 浪板1区お茶っこ会
市地域包括ケア推進協議会合同幹事会	2月 4日	ワンテン庁舎	和野サロン
西地区内交流事業団体の情報交換会&交流会	2月 7日	条南分館	参加各団体の活動紹介
地域包括ケア市民フォーラムinからくわ	10月 5日	燦さん館	まゆみの会 鮎立クラブ
宮城発！これからの福祉を考える全国セミナー	2月14日	仙台市	気仙沼の活動紹介 踏み切り手前のお茶処

※地区住民懇談会の中でも活動紹介

**地域で楽しく支え合い！
「おらほのお宝発表会」開催**

「地域のお宝」とは…
普段の暮らしのなかで当たり前に行われていることが、実は見守りや情報交換、つながりづくりや支えあい、助けあいの場になっています。このような活動や人が集う場などを「地域のお宝」と呼んでいます。

8月21日、ワン・テン庁舎大ホールにおいて、「地域で楽しく支え合い～おらほのお宝発表会」を開催。当日は、気仙沼市と南三陸町から約140名の参加がありました。

はじめに、東北福祉大学高橋誠一教授から「いつまでも住み続けられる地域になるために」をテーマで講話があり、その後に住民同士の支え合い活動が紹介されました。

活動発表は、気仙沼市から「館山わんこクラブ」「浪板1区お茶っこ会」「大初平いきいきクラブ」「踏み切り手前のお茶処」の4団体。各団体からは、交流活動の中で生まれた見守りや支えあい、地域の情報交換、新しく転居してきた方とのコミュニティづくりなどが紹介されました。

まとめとして講師の高橋教授は、「この支え合いが地域のお宝であり、これを継承しながら、一人ひとりが元気になっていくことが地域の元気につながっていく」と話されました。



浪板1区お茶っこ会



館山わんこクラブ



大初平いきいきクラブ



踏み切り手前のお茶処

○地域支え合い協力員の配置

【配置状況】5地区社協 12名（昨年度比 4名増）

・西地区 2名 ・上地区 2名 ・魚町地区 2名 ・南地区 1名

・鹿折地区 1名 ・松岩地区 1名 ・唐桑地区 2名 ・小泉地区 1名

（2）多様な主体への協力依頼等働きかけ

○気仙沼市社協だよりによる紹介の実施

○パネル展示開催

本吉地域福祉まつり 6月30日

老人福祉センター 福寿荘 10月12日～11月8日

唐桑地区福祉まつり 11月17日



福寿荘での展示

○生活支援体制整備事業の説明

・本吉地域ケアマネ協会定例会 9月11日

・気仙沼・南三陸介護サービス法人連絡協議会居宅介護支援部会研修会 （11月18日）

・市ボランティア連絡会 12月10日

・地域福祉推進フォーラム 12月14日

・市老人クラブ連合会 2月17日

・地域における事業等の説明（地区社協，自治会，交流サロン，任意団体等）全32回

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，3月以降の事業説明等の予定は中止となりました。

(3) 担い手の育成

○昨年度に引き続き、宮城県生活支援コーディネーター養成研修カリキュラムが、本市を会場に開催され、地区社協役員や民生委員児童委員、ボランティア、地域支え合い協力員等と地域支え合い推進員が共に受講しました。全5回のうち1回の研修は1層協議体メンバーの方にも受講いただきました。(全5回 延べ308人参加)

○3月6日開催予定の地区社協役員研修会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため延期となりました。

(4) 関係者間のネットワークの構築

○昨年度に引き続き、各地区社協圏域で開催される自主防災意見交換会、防災ワークショップ等へ参加協力

○支援者ミーティングへの参加

○地域づくり・地域相談業務関係者情報交換会参加

○小規模法人連絡協議会の参加

○地区民生委員児童委員協議会定例会出席(毎月)

※上記のほか、まちづくり協議会、地域団体等とも随時連携・協働しています。

(5) 目指す地域の姿・方針の共有、意思統一

○モデル地区社協の指定

気仙沼市社会福祉協議会地域支え合い活動推進モデル地区社会福祉協議会指定事業

・モデル地区社協指定(初年度)(1地区)

指定期間 令和元年10月1日～令和3年3月31日(1年半)

大谷地区社協(実施主体 前浜地域振興会)
前浜地域見守り活動

・モデル地区社協指定終了(2年度)

指定期間 平成30年10月1日～令和2年3月31日(1年半)

新月地区社協(実施主体:表松川自治会)
新月地区表松川自治会における住民の特技を活かした生きがい・健康づくり事業
松岩地区社協(実施主体:高齢者サロン水梨陽だまりカフェ)
松岩地区内における高齢者サロンを通じた生きがいづくり支援と世代間交流事業の展開

新月地区社協（実施主体 表松川自治会）

新月地区表松川自治会における住民の特技を活かした生きがい・健康づくり事業

「表松川自治会 ひなたぼっこ」

～地域住民の健康づくりと安心安全な環境づくりをみんなで一緒につくりましょう～

■一人の気づきから
団体結成に

平成三十年十月十九日に表松川自治会の看護師五名が中心となり、地区住民の健康づくりと安心安全な環境づくりを目的に「ひなたぼっこ」を立ち上げました。

この活動は一人の看護師が「地域の老年部の方々がいずれも活発に活動をしているが、心配事や緊急時の対応をどのようにしているのか」ということを友人に相談したことがきっかけとなり自治会とタイアップした活動を行っています。

■知る事・知ってもらう事

「ひなたぼっこ」では緊急時のことを考え、地域のどこに消防（自動体外式除細動器）があるかを確認しました。また、自治会館内に感染症予防の注意喚起スペースを設け、利用する方へ情報提供をしながら注意喚起をしています。

「高齢の方の心配事として「認知症」があったことから、岩手県から講師を招き、勉強会を開催しました。

もし自分が、家族が、友人が認知症になったら時の対応として個々ができること、家族ができること、地域でできることを考える貴重な機会となりました。

また、自治会の集まりでは、血圧測定や健康相談などを行い、ここから病院の受診につながるケースや健康管理への意識付けに繋がっています。

■地域の小さな状況に変化

代表の方から、「最近では、社会参加が介護予防につながるという言葉を住民から聞く事が多くなった」と伺いました。認知症の勉強会や行事での相談、日常的な情報提供などが高齢者の健康増進と介護予防につながっているようです。

■気軽に話し合い

話し合いの場では協議事項の他に地域のつながりや、挨拶、見守り、防災など地域の課題について意見が上ります。その中で「今できること」を考えながら活動すること大切にしているそうです。

「私たちも当事者です。」と皆さんは話します。それぞれ持病を持ちながら、※フレイル予防、介護予防を意識しながら健康講座などに参加し知識を高め、地域の方々へ伝達することで、健やかで暮らしやすい環境づくりの推進に繋がります。

「ひなたぼっこ」では、地域住民へ、コロナウイルス対策やフレイル予防、簡単な体操など情報を冊子にし、「ほかに何かお便り」を全戸に配布しました。

社会の状況、地域の状況に合わせて変化する活動は「ひなたぼっこ」の魅力です。いつでも気軽に相談できる地域の中の保健の先生です。

※フレイルとは
加齢とともに心身の活力（筋力や認知機能など）が低下した状態。




松岩地区社協（実施主体 高齢者サロン水梨陽だまりカフェ）

松岩地区内における高齢者サロンを通じた生きがいづくり支援と世代間交流事業の展開

松岩地区「水梨陽だまりカフェ」

（高齢者サロンを通じた生きがいづくり支援と世代間交流事業の展開）

■みんなと笑って過ごせる場を立ち上げ

平成27年10月、地域の看護師、民生委員・保健推進員3人による「みんなと笑って健康寿命を延ばせるような場所や私たち現役世代が退職した後も、地域に通える場所なんか作りたいたいよ」という思いから、月2回の高齢者交流サロン「水梨陽だまりカフェ」をスタートさせ、当初17名だった参加者が、現在は25名が集まる楽しく健康寿命を延ばす場として定着しています。

■受け手側から「支える」側への動き

平成30年4月、サロンを立ち上げたお世話役の方々が、新たな活動として地域の子供たちの遊び場づくりと世代間交流の場「水梨キッズカフェ」をスタートさせました。

地域共生社会に向けた活動として、月1回、多世代が参加できるような様々な工夫を凝らして、子どもたちの遊び場や読みかせなどのほか、バザーや野菜の直売などもあり、現在では130人以上が参加する大きな活動になっています。

■高齢者がいきいきと、子ども達の声が響く地域に

サロン開始から間もなく5年の節目を迎えるにあたり、事業を運営する代表の秋山順子さんは、「また参加したい」と思えるようなサロンづくりをみんなで作ることと同時に、役割や生きがいをもって地域で暮らしていけるよう、多世代交流事業への積極的な参画にも期待しています。

「高齢者の経験と知恵を頂きながら、子育て世代も住みやすい地域になるよう協力していくことが重要です。地域、社協様々な団体と連携・情報交換しながら、笑顔あふれる地域づくりの取り組みを今後も目指していきます。」と話してくださいました。




○地域支え合い推進員連絡会議

毎月1回定例開催

○地域支え合い協力員との合同連絡会

1回（令和元年8月8日開催）

地域支え合い協力員と情報交換や地域活動への同行等、随時連携を図っています。

（6）協議体の様子

第1層協議体	令和元年8月21日開催 ・今年度生活支援体制整備事業活動計画 ・宮城県生活支援コーディネーター養成研修実践講座受講 令和2年1月24日開催 ・令和2年度専門部会の協議テーマについて ・「県内の取組み状況について」講話	
第2層協議体	地区住民懇談会 7地区社会福祉協議会で開催	
	開催地区	西地区，上地区，南町柏崎地区，新月地区，大島地区，津谷地区，大谷地区
	内 容	支え合いの地域づくりを目指して事業説明，集いの場紹介，意見交換など。※地区により内容は異なります。



西地区

みんながふれあい支えあって 自分らしく安心して暮らせる地域づくり

6月15日(土)九条4区自治会館、7月6日(土)条南分館において、西地区社協

地区住民懇談会

主催の地区住民情報交換会が開催されました。

はじめに、「自分が住んでいる地域の未来（市地域包括ケア推進課）」「社協について（市社協）」「第3期気仙沼市地域福祉計画・気仙沼市社協地域福祉活動計画について（市社会福祉課・市社協）」の説明があり、その内容を踏まえながら、地域や福祉のことについて情報交換&懇談を行いました。

***** こんなお話がありました *****

- 地区で交流事業をしている。それは、地域福祉計画そのものだった。活動の中で、困りごとなどの情報共有できる関係が良い地域づくりに繋がると思う。
- 交流サロンを始めて3年になる。立ち上げ当初はどうしたらよいか分からなかったが、自分がやりたいこと、楽しいことから始めた。今では、皆さんサロンを楽しみにしている。
- 挨拶や声掛けなど身近にできることを行っている。
- 震災後に西地区に転居した。初めは不安だったが、地域の皆さんが気にかけて声を掛けてくれることは、本当にありがたい。地域の行事には積極的に参加している。
- 犬の散歩をしながら防犯パトロールをしている。
- 地域行事に若い人や男性の参加者が少ない。
- 交流行事の内容がマンネリ化している。など



新月地区

6月25日(火)新月公民館において、新月地区社協住民懇談会が開催され、「第3

期気仙沼市地域福祉計画・気仙沼市社協地域福祉活動計画」説明と新月地域での取り組み事例の紹介が行われました。活動の紹介では、ミニデイサービスのミニ活動の紹介、世代間交流をととした挨拶から始まるコミュニティづくり、看護師OBの気付きから始まった地域の安全・安心な環境づくりについて紹介されました。

その後の懇談会では「支え合いの地域づくりを目指してみんなのできることを考えよう」をテーマに意見交換を行いました。

***** こんなお話がありました *****

- 生を受けて亡くなるまでが世代間交流と思う。高齢者が集いの場に参加しやすいような環境づくりが大切と感じる。家族の後押し、参加しやすい雰囲気づくりがあると良い。
- 集いの場に特定の人しか来ないという課題がある。女性部が様々な集いの場を作っている。
- 会のネーミングを子供達に決めてもらった。（「世代間交流会」から「てんぐ祭り」へ）
- 自治会館の維持費、事業を行う上で、資金についてどのようにしているのか教えてほしい。など



上地区

みんながふれあい支えあって 自分らしく安心して暮らせる地域づくり

9月29日(日)駅前
コミュニティセン

地区住民懇談会

ターにおいて、上地区住民懇談会が開催され、「第3期気仙沼市地域福祉計画・気仙沼市社協地域福祉活動計画」の説明と計画の内容に照らし合わせた地区内の「ふれあい支え合う地域づくり」に向けた活動紹介をしました。懇談では『あなたの避難場所「教えて☆あれ・これ☆」』をテーマに普段住民の方々が気になっていることなどの情報と意見交換を行いました。

***** こんなお話がありました *****

- 地区内で一時避難所を決めている。指定避難所に避難することもある。
- 地区には防災マップがある。土砂災害の危険区域で道路も狭い。自治会館には備蓄品もある。
- ペンライトを常に持ち歩いている。災害の時だけではなく、鍵を開ける時役立つ。
- 地区の認知症の高齢者は自分が病気という認識が無いので避難行動要支援者に登録を希望しない。市もその辺を考慮しなければ、火災等も心配であり、今後の課題である。
- いざという時にどこに避難するか、地区として、個人として考えておく必要があると思う。
- 指定避難所へは車で行かなければならないし、バリアフリーの建物もないため、自宅にいた方が良いと思ってしまう。福祉の目線で避難所を考える必要がある。



大谷地区

10月から11月にかけて、大谷地区社会福祉協議会主催による大谷地区内の6地域で地域住民懇談会が開催されました。

懇談会では、開催される地域や振興会毎の人口推移や高齢化率などの説明を受けた後、自分の住んでいる地域の実情や将来この地域がこうだったらいいなど、参加された住民の方々の地域に対する熱い思いや様々な生活課題などの意見が交わされました。

***** こんなお話がありました *****

- 今住んでいる地域で元気に笑って過ごしたい。
- 運転免許返納後の買い物や通院が大変。乗り合いバスがあれば良い。
- 子供たちの声が聞こえる地域になって欲しい。
- 高齢の一人暮らしの方への声掛けや見守りをしている。
- 地域の役員のなり手がいない。
- 災害時の身近な地域での避難所の問題。

成果

本市において、宮城県・宮城県サポートセンター支援事務所主催、気仙沼市・気仙沼市社会福祉協議会等共催による「おらほのお宝発表会」が開催され、4団体が活動発表をしました。地域支え合い推進員だけでなく、住民自らが登壇することで、活動の意欲と支え合いの継承につながり、また地域活動が自然に支え合いや見守りに繋がることを、共有できた場となりました。

地域支え合い活動推進モデル地区社協の2地区社協が指定終了年度となりました。

新型コロナウイルス感染拡大防止から報告会は実施せず、社協だより紙上で活動報告することで、市民への周知と他地区への活動の拡がりを図りました。

また、住民懇談会を地区社協内複数エリアに分け、より身近な場所で話し合うなど工夫した地区もあり、気軽に参加しやすく、発言しやすい雰囲気づくりに努めました。

◇◇令和2年度の主な取組み◇◇

(1) 社会資源の見える化・発信

「けせんぬま地域活動団体紹介あづまっページ」作成・配布

地域活動への理解促進と、何らかの支援が必要になっても地域とのつながりを途絶えることなく暮らし続けられる地域づくりを目指し作成しました。

【内 容】 ◇生活支援体制整備事業の説明 ◇地域支え合い推進員の活動

◇掲載団体一覧 ◇各団体紹介

※今回の掲載団体は、気仙沼市社協登録ボランティア団体、老人クラブ連合会加入団体40団体です。今後掲載団体を増やしていきます。

【配付先】 市内居宅介護支援事業所（ケアマネ事業所）や公民館、関係機関等

…タイトル内の「あづまっページ」について…

気仙沼の方言である「あづまっぺ（集まろう）」とページを組み合わせ、親しみやすいネーミングにしました。



○高齢者の社会参加

地域とつながりながら、
役割を持って元気に暮らす
高齢者の方を「社協だより」
表紙で紹介しました。



(2) 多様な主体への協力依頼等働きかけ

コロナ禍で集まる場は減少しましたが、感染予防等工夫しての取組みを提案し、地域の繋がり
づくりの維持に努めました。

○啓発活動

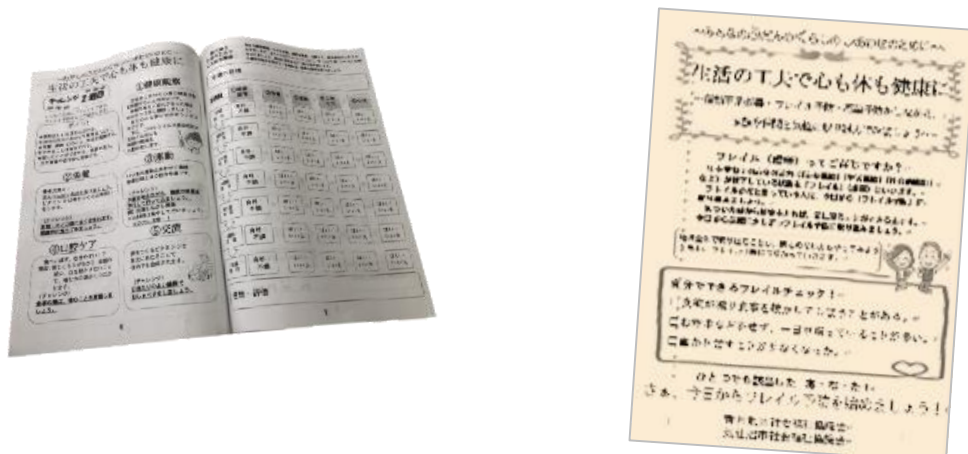
- ・「フレイル予防とこんなときこそ地域の支え合い」のチラシ作成

地区社協と一体的に
配布しました。



- ・フレイル予防小冊子作成

新月地区社協との共催により、地区住民からアイデアを頂き作成しました。



○パネル展示

気仙沼市役所ワンテンビル情報プラザ
において、12月11日～12月18日
まで、事業説明や支え合い活動を紹介
するパネル展示をしました。



○地域支え合い協力員の配置状況 10地区社協 15名（前年比 3名増）

- ・西地区 2名 ・上地区 2名 ・魚町地区 2名 ・南地区 1名
- ・鹿折地区 1名 ・大島地区 1名 ・面瀬地区 1名 ・唐桑地区 2名
- ・小泉地区 1名 ・大谷地区 2名

（3）関係者間のネットワークの構築

○各地区社協圏域で開催される防災意見交換会への参加

○まちづくり協議会の新たな展開に向けたワークショップに参加。ファシリテーターを担いながら、現状把握とネットワークづくりに努めました。

○地区民生委員児童委員協議会定例会出席（毎月）

※まちづくり協議会，地区社協，自治組織など地域団体と随時連携・協働しています。

(4) 目指す地域の姿・方針の共有，意思統一

○モデル地区社協の指定

気仙沼市社会福祉協議会地域支え合い活動推進モデル地区社会福祉協議会指定事業

・モデル地区社協指定（初年度）（2地区）

指定期間 令和2年10月1日～令和4年3月31日（1年半）

上地区社協（実施主体 上地区社協）
上地区みんなで取り組むフレイル予防からの見守り，つながり推進事業
鹿折地区社協（実施主体 鹿折地区振興協議会）
「鹿折子ども見守り隊」による地域の見守りつながりや健康増進推進事業

・モデル地区社協指定終了（2年度）

指定期間 令和元年10月1日～令和3年3月31日（1年半）

大谷地区社協（実施主体 前浜地域振興会）
前浜地域見守り活動

○地域支え合い推進員連絡会議 毎月1回定例開催

○地域支え合い協力員との合同連絡会

令和2年10月13日開催

合同連絡会のほか，地域支え合い協力員とは，情報交換や地域活動への同行等，随時連携を図っています。



地域支え合い協力員・地域支え合い推進員合同連絡会議 研修の様子

(5) 協議体の様子

第1層協議体	令和2年11月17日開催 ・健康長寿のまちづくりのための生活実態調査及びみんなが主役の介護予防作戦会議報告 ・アクションプランと成果指標の見直し、令和3年度のテーマについて	
第2層協議体	開催地区	上地区, 魚町地区, 鹿折地区, 新月地区, 津谷地区, 大谷地区
	内 容	健康長寿のまちづくりのための生活実態調査 2019 調査結果について, フレイル予防の取組み, 自分たちの住む地域について, 意見交換など ※地区により内容は異なります。

津谷地区社協地域住民懇談会

津谷地区ミニ社協単位に、平成30年3月に策定された地域福祉活動計画を再確認しながら、現在の地域の状況や、普段の生活の中で感じていることなどについて意見交換が行われました。

今後様々な災害が考えられることから、地域での対応の仕方の検討や、困りごとへの対応など、短時間でも内容の濃い情報交換ができていました。



☞ こんなお話がありました ☞

- 地域の避難訓練の実施は大事なことと感じている。
- 独居の方も多くなり、関係機関との連携が重要になってくる。
- 地域で防犯パトロールを行っているが、住民は回ってもらっているという安心感がある。
- 日頃の交流の機会が少なくなり、コロナ禍での地域活動のあり方を危惧している。
- 山田地域の移動支援サービスのような備えをしていかなければならない。移動でどれだけの方が困っているのか、住民に対してアンケートをとってみてはどうか。

新月地区社協地域住民懇談会

新月地区社会福祉協議会では、令和2年12月1日、地域の健康課題に気づき、今ある活動がフレイル（虚弱）予防に効果があり、より工夫することで安心した生活につながればと懇談会を開催しました。

地域包括ケア推進課の職員から「健康長寿のまちづくりのための生活実態調査2019」の結果報告と、地域支え合い推進員から、気仙沼市内の事例を紹介しました。その後、地区社会福祉協議会の吉田会長を座長に、新月地区の活動について参加者からお話を頂きました。

※新月地区社会福祉協議会では、地区住民へフレイルの注意喚起と予防実践の資料を配布する予定です。



◆◆◆ こんなお話がありました ◆◆◆

- 「新月グラウンドゴルフ協会です。特に変わったことはしていません。みんなで集まり、スポーツを楽しんでいます。障がいのある方も集いに参加します。参加しやすい雰囲気づくり、自分から参加することが大切です。」
- 「保健推進員です。研修で勉強したことを集いの場で皆さんにお伝えしています。お互い知っている知識の共有をします。」

大谷地区社協日門地域住民懇談会

令和2年12月13日、日門地域住民懇談会が開催されました。

23名の地域住民の方々が参加され、始めに、社会福祉法人春園会による日門地域で行ったフレイルに関するアンケート調査結果の報告後、昨年開催した住民懇談会の結果をもとに懇談しました。

日門地域振興会大原会長は、「月1回行っていたお茶飲み会が、コロナの関係で実施できていない状況ですが、少人数でもいいので、好きな時に集まれる場所として、ぜひ日門コミュニティセンターを活用して欲しい。」と話していました。



◆◆◆◆◆ こんなお話がありました ◆◆◆◆◆

- ベンチがあるだけで良いから、子どもたちが気軽に集まれる場所があるといいな。
- バス停も遠いし、買い物や通院の移動が大変になってきた。
- 隣近所も遠く、防犯の関係が心配。

成 果

「みんなが主役の介護予防作戦会議」への参加により、参加者が地区の健康生活課題を把握することで、住民が話し合い、課題解決のためにコロナ禍でも工夫した取り組みがみられました。上地区社協の「青空喫茶」や鹿折地区の「子ども見守り隊」は、地域支え合いモデル地区社協の事業でもあり、地域ぐるみの活動になっています。

また、独自に作成したフレイル予防のチェックシートを毎戸に配布する地区社協など、地域の健康や生活課題に対し、新たな取り組みで、ピンチを地域活動のチャンスに代える意気込みが見られ、地域支え合い推進員がサポートしています。

◇◇地域課題に対しての地域支え合い推進員の関わりと地域の動き◇◇

地域支え合い推進員が、地域課題に対して、どのように関わり、それによる地域の動きや成果の一部を抜粋しました。複数年にわたる取り組みや、単年度の取り組みなど、様々なことから、年度報告のほか令和2年8月の状況として、地区別に以下のとおりまとめました。

地区名	地域の課題	支え合い推進員の関わり	地域の動き・成果
西地区	交流事業を実施しているが、他団体の活動内容を知り、自分たちの活動に生かしたい。市補助金を使わずに活動している団体は、情報交換の場がない。	地区社協会長に相談し、地域支え合い推進員が企画。支え合い協力員とも内容を検討しながら、準備・案内・運営等を担い、「西地区交流事業実施団体 情報交換&交流会」を地区社協共催の下、開催した。	活動団体が改めて自分達の活動の大切さを見直す機会にもなり、継続した活動意欲に結び付いた。また、情報交換により団体が結びつくきっかけになり、話合いの大切さも経験いただいた。今後の地域課題等解決に向けた話し合いへの参加が期待される。
上地区	近くのスーパーが閉店し、買い物に困る住民がいる。住民が相談し、イオンの移動販売車を依頼。またコロナにより集うが減少した。	移動販売車の時間に合わせ、地区社協主催の青空カフェ開催を働きかける。準備の段階より関わり、当日も参加。住民の声を聞き、生活状況の把握に努めた。 また、同地区内の他地域でも、買い物困難者の話題があることから、住民ニーズと市内移動販売の状況を確認しながら、他地域の展開について相談していく。	第2回移動販売・第1回青空カフェ（8月3日）には、30人程集まり、大盛況であった。カフェの持ち方については、2回試行し、地区社協で検討の方向。 コロナにより地区社協の行事は減少したが、工夫しての活動を試みている。また、行事には参加しないが、買い物には集まる方もおり、日頃接点の少ない住民の声を聞くなど、ピンチをチャンスに代えている。
中央地区	集会所など地区内に自由に集まれる場所がない。	支え合い推進員が商工会議所や空き店舗に相談したが、震災の影響等で改修が必要であり、改修費をどこが負担するかで行き詰った。今後、共同募金や団体からの助成金の活用などを探っていく。	（地区の現状） 地区社協も探しているが、現在は集まる時間帯や内容から、飲食ができるスペースを望むことから、地区内飲食店を利用している。現在は、コロナ禍のため電話連絡で対応している。
新月地区	高齢者のコロナ予防やフレイルが心配される。	表松川自治会看護師グループ「ひなたぼっこ」が、地区内高齢者を心配し、住民向け冊子作成の相談あり。推進員が掲載内容の情報収集や冊子の編集等を協力し「ぽかぽかお便り」が完成。 住民の気づきと行動を支え合い推進員が支えている。	表松川自治会全戸配布のみならず、松川公営住宅への全戸配布など、自治会を越えたコミュニティづくりの取り組みになっている。また、活動の意欲にも繋がっている。

地区名	地域の課題	支え合い推進員の関わり	地域の動き・成果
松 岩 地 区	一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増加し、見守りが心配な世帯が増えている。	令和元年度、平貝自治会長より自治会地域見守り体制の構築について相談あり。自治会長、松岩新月地域包括支援センター所長、支え合い推進員三者での打合せを重ね、内容を検討した。R2.7には、自治会第一福祉部会定例会に参加し、見守り活動の大切さを参加者へ説明。8月1日からスタート。8月6日、初の見守り会議に参加予定。 今後も連携しながら、先行事例として広く発信していく。	自治会内でも検討を重ね、実施に至る。具体には広報配布時、事前に自治会においてアンケートをとった希望世帯へ班長が声がけをする。班長は、全班内世帯の状況を見守りシートに記入。それを基に見守り会議を開催。内容により、自治会組織で解決できるもの、専門機関へつなぐものと精査し、民生委員も関わる。 自治会では、高齢者の生活を地域で支える「地域支え合い計画」など、時代や状況に合わせ活動を変化させている。
鹿 折 地 区	被災を受けている地域では、再建により住民が戻ってきているが、自治会組織がまだなく地域での交流の場がない。	住民同士の集う場として何か支援できないだろうかと、鹿折地区に関わる支援団体（地域団体含む）に働きかけ、協働で集う場を開催した。また、自治会の活動が休止中（現在は活動中）の時期には、住民から交流の場の希望があったことから、交流会への参加調整をするなど、柔軟に対応している。	被災を受けて、現在、自治会組織がない地域では、地区社協も共催でこの事業に参画している。現在はコロナの影響で交流会開催を見送っているが、新しい生活様式により住民同士が繋がる場を作っていく。
小 泉 地 区	震災の被害が大きく、地区活動が困難である。地域福祉活動の核となる地区社協の動きがとれない。	平成30年に震災後初の地区社協総会が開催。推進員が働きかけ地区懇談会の開催に至る。その後は、本吉病院院長の講演会調整やチランづくり支援、懇談会の調整（令和元年度はコロナの影響で中止）、令和2年度総会には、生活支援体制整備事業説明や地域活動紹介など、啓発に努めている。 なお、はまなすの丘まつりの実行委員を担うなど、地域団体や関係機関と連携しながら、地域福祉活動の企画・運営に参画し、機運を高めている。	震災後、地区のキーパーソンも入れ替りがあったことから、地区社協として、懇談会や総会等において支え合い活動の大切さを改めて伝える時間を設けることで、地域の理解者も広がっている。

3 「みんなが主役介護予防作戦会議」の開催について

令和元年10月に、東京都健康長寿医療センター研究所と市が協働で「気仙沼市健康長寿のまちづくりのための生活実態調査2019」を実施し、65歳から84歳まで（要介護認定者は除く）の高齢者9,754名に調査票を郵送し、8,150名の方より調査票を回収（回収率84%）。調査結果より、高齢者の生活実態を把握することができ、健康課題について各地域での説明会（介護予防作戦会議）を開催し、地域支え合い推進員が中心となって各地区に働きかけ、地区の関係団体に参加して頂き、今後、地域でどのようなことに取り組んでいくかなど、意見交換を実施しました。

（1）実施期間

令和2年7月16日～10月2日（9日間）

（2）実施会場・参加者数：

月 日	実施会場	参加者数	対象地区	出席者
7月16日	大島公民館	11	大島地区	・自治会会長 ・民生委員 ・保健推進員 ・まちづくり協議会 ・ボランティア団体 ・福祉施設関係者 ・地区社協
7月17日	ワンテン庁舎	17	上地区	
7月17日	市民福祉センター「やすらぎ」	24	鹿折地区	
7月17日	中央公民館	13	西地区	
7月18日	ワンテン庁舎	26	新月地区	
8月20日	本吉保健福祉センター「いこい」	16	津谷地区	
8月21日	小泉公民館	11	小泉地区	
8月21日	中央公民館	13	南地区	
8月21日	唐桑公民館	10	唐桑地域	
8月22日	大谷公民館	14	大谷地区	
9月17日	階上公民館	17	階上地区	
9月18日	面瀬公民館	12	面瀬地区	
9月18日	松岩公民館	14	松岩地区	
10月2日	ワンテン庁舎	21	中央地区 魚町地区 南町・柏崎地区	
	14会場	計 219人		

（３）各地区における意見交換の内容

【大島地区】

コロナウィルスの感染防止のため、交流サロンを４か月間自粛し、長時間集まらないようにし再開した。

災害公営住宅の集会所で実施しているが、近くの人たちが歩いて参加できるので、高齢の方も参加している。顔なじみの方たちが参加することで、お互い元気な姿をみて自分自身も元気になっている。



【鹿折地区】

この会議に集まった方たちで、子どもたちの登下校の見守り隊を結成してはどうかと意見が一致した。他関係団体の協力が必要なため、今後話し合いをすすめていきたい。



【西地区】

九条１～５地区と四反田地区と協同で、「自主防災」に取り組んでおり、年配の方たちが地域の状況をよく分かっているので、地域の先輩方の力を借りながらすすめている。



【上地区】

男性のメンタルヘルスの課題が気になった。集う場（特に運動場）が欲しい。地区社協で懇談会を開催し、市と一緒に地域の課題解決に向けて話し合っていると良い。

【中央、魚町、南町・柏崎地区】

南町２区自治会では、コモンズ（災害公営住宅集会室）を会場に、不定期で映画上映会を実施している。参加者数は少ないが、継続で実施することで、災害公営住宅入居者同士の交流の機会になっている。



【南地区】

河原田 1 区では、組長が広報配付の際に高齢者世帯への声掛けを行い、そのほかに民生委員も訪問し声掛けするよう取り組んでいる。何か気になることがあれば連絡を取り合うことにし、自治内での高齢者の見守り支援に取り組んでいる。



【松岩地区】

月 1 回広報を配付する際に、班長たちが一人暮らしの世帯の安否確認を行い、その結果を自治会長まで報告を頂き、それをもとに月 1 回関係団体と情報共有している。



【新月地区】

地域の活動に参加しない方たちへの関わりとして、「フレイル予防」に関するチラシなど老人クラブを通じて、近所の方に配布していただいた。今回の結果説明のなかで、「女性の孤立感の割合が多い。」ということで驚いた。



【面瀬地区】

交流サロンに取り組んでいるが、小学校のほうから子供たちのイベントを開催して欲しいという要望があり、今後計画していく予定。



【階上地区】

地区にパークゴルフ場が開設され、愛好会もできた。社会参加が少ない男性も、これを機に運動できると良い。

【唐桑地区】

高齢になってから地域活動に出てくるのは、難しい。子育て世代のうちから、地域活動に参加していくことが大切である。若い世代をどのように地域活動に参加してもらうかが、課題である。

【津谷地区】

山田地区では7月より交通手段のない方を対象に、買い物・通院・銀行などへの移動手段を確保するため、「移動支援サービス」を週3回開始。地区内のボランティア運転手10人、利用登録者が20人程度となっている。「今、困っている人を、今、助けよう。」という思いで取り組んでいる。



16地区を担当して、地区活動を支援している気仙沼市社会福祉協議会職員

【小泉地区】

70代前半の人たちで、「高齢者は集まりがあって良い。自分たちにも集まりがあると良い。」との意見より、昨年10月から何気ない地域のことを話し合う機会を月1回開催している。

【大谷地区】

今回の会議では限られた人のみの参加であり、このような説明会をもっと開催し、多くに人達に参加し知って欲しい。市として、地域として、懇談会を再度開催していけると良い。

(4) 今後の取り組みについて

今回の意見交換会をきっかけに、地域での活動を通して、地域の課題解決に向けて、今後も地域支援推進員と関係団体や地域住民と協働で取り組んでいくことを目指します。

4 4カ年の事業実施を通して

平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、多くの地域では被災し、災害公営住宅や防災集団移転団地などにおいて、新たなコミュニティ作りに多くの時間を費やしてきました。そのようななか、地域支援推進員を通じて、地域には様々な地域活動団体が存在し、「地域のお宝」の発見につながりました。地域の人たちが元気に過ごすためにも、集まれる場所や行政支援の情報提供・人的支援などが必要です。

地域支援推進員が、地域を訪問するなかで、地域の困りごとの相談に応じたり他地域の好事例を紹介し、活動のヒントになるなど、地域に寄り添った支援を継続していく必要があります。

なお、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、啓発普及活動や協議体における話し合いの場も限られた地区でしか取り組むことができませんでした。

5 令和3年度以降の事業展開・方向性について

令和3年4月より、第1層地域支え合い推進員1名のほか、第2層地域支え合い推進員を新たに9名専任職員として配置し、関係団体と連携を図り、更に支え合いの地域づくりのための取り組みをめざします。主な事業内容としては、地域の生活課題解決に向けた協議体の開催、介護予防・生活支援サービスにおける高齢者のニーズ把握、広報啓発活動を引き続き継続します。

【具体的な取り組み内容】

○地域活動や社会資源の把握に努めるとともに、地域課題の共有とその解決に向け住民や関係機関等と一体となり取り組めるよう、住民懇談会（第2層協議体）等を開催します。

○地域課題解決に向けて必要な支え合いの担い手を養成し、活動に参加できるよう支援します。

○地域団体、関係機関等とのネットワークづくりを行います。

○地域の支え合い活動の啓発と充実・発展を目指し、住民向け研修会等の開催や広報等による発信を行います。

○フレイル予防と高齢者の社会参加が促進するよう努めます。

令和 2 年度 気仙沼市生活支援体制整備事業報告書

発行日 令和 3 年 3 月

発行元 気仙沼市保健福祉部地域包括ケア推進課

社会福祉法人 気仙沼市社会福祉協議会